

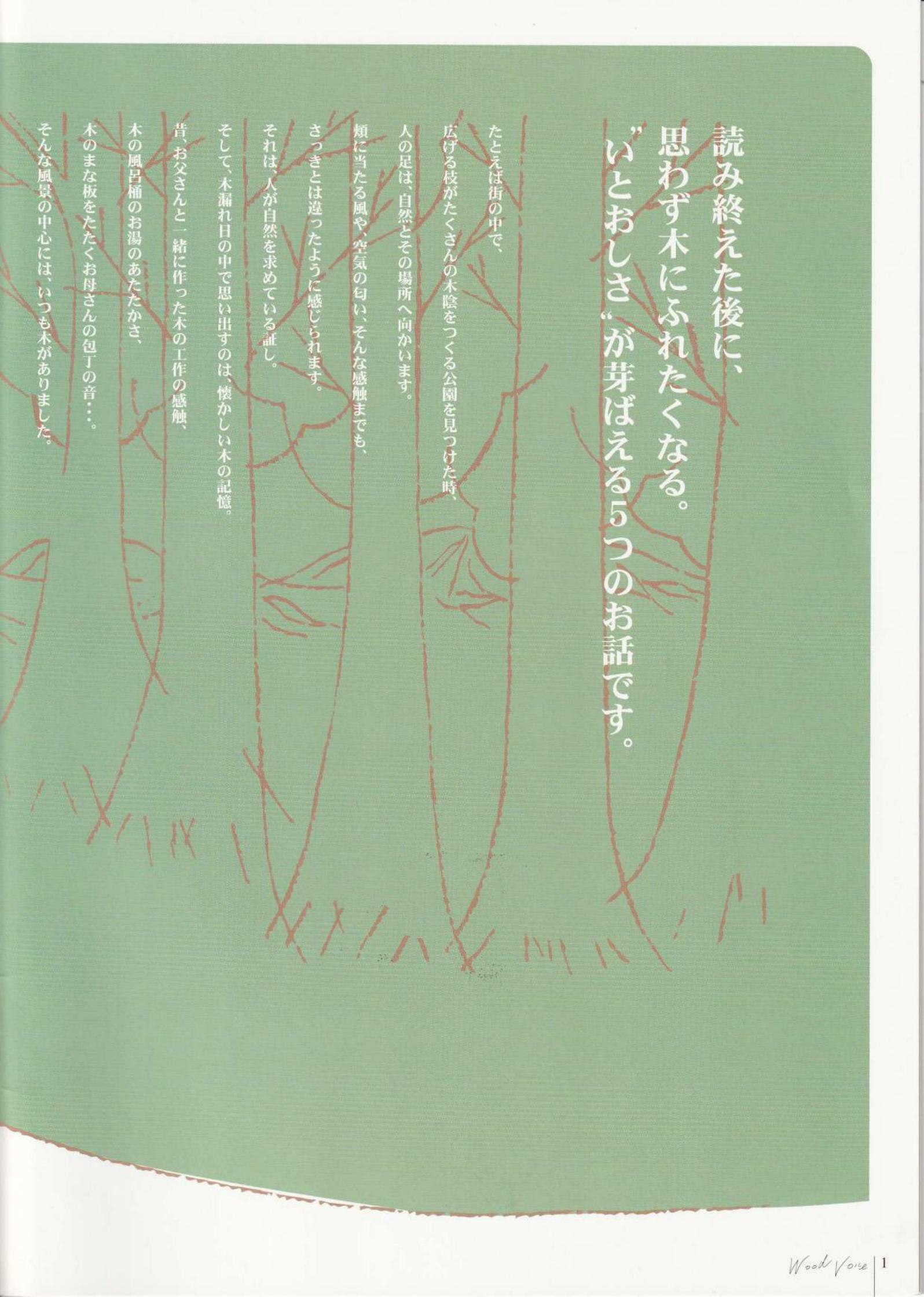
Wood oice

木の家に住みたくなる本。



ウッドボイス CONTENTS

イントロダクション		1・2
① 木と生物環境	有馬孝禮	3・4
② 木と室内空気汚染	宮田幹夫	5・6
③ 木と住まいの設計	栗田 仁	7・8
④ 木と伝統工法	長田喜一	9・10
⑤ 木と暮らす実感	市田充・美七子	11・12
図表で見るレビュー		13・14



読み終えた後に、
思わず木にふれたくなる。
いとおしさが芽ばえる5つのお話です。

たとえば街の中で、

広げる枝がたくさんの木陰をつくる公園を見つけた時、

人の足は、自然とその場所へ向かいます。

頬に当たる風や、空気の匂い、そんな感触までも、

さつきとは違ったように感じられます。

それは、人が自然を求めている証し。

そして、木漏れ日の中で思い出すのは、懐かしい木の記憶。

昔、お父さんと一緒に作った木の工作の感触、

木の風呂桶のお湯のあたたかさ、

木のまな板をたたくお母さんの包丁の音…。

そんな風景の中心には、いつも木がありました。

時代は流れ、金属やコンクリート、合成樹脂などの人工素材が、

私たちの身の回りを取り囲むようになって、

私たちがふと思いついた木のぬくもりは、

消えゆくばかりか、確かな呼び声となって、私たちの心に響いてきます。

伐られてからも、木は暮らしの中で私たちと生き続ける。

木が人の健康に働きかける、やさしさ、心地良さ、安心感。

それは、気分的なものばかりではなく、

木だけが備えている自然素材としての機能なのです。

生活の中心にあった木を知らない世代が年々増え続ける中で、

人が暮らす環境について、家族が一緒になって考えて欲しい……。

そんな願いを込めて、この本は生まれました。

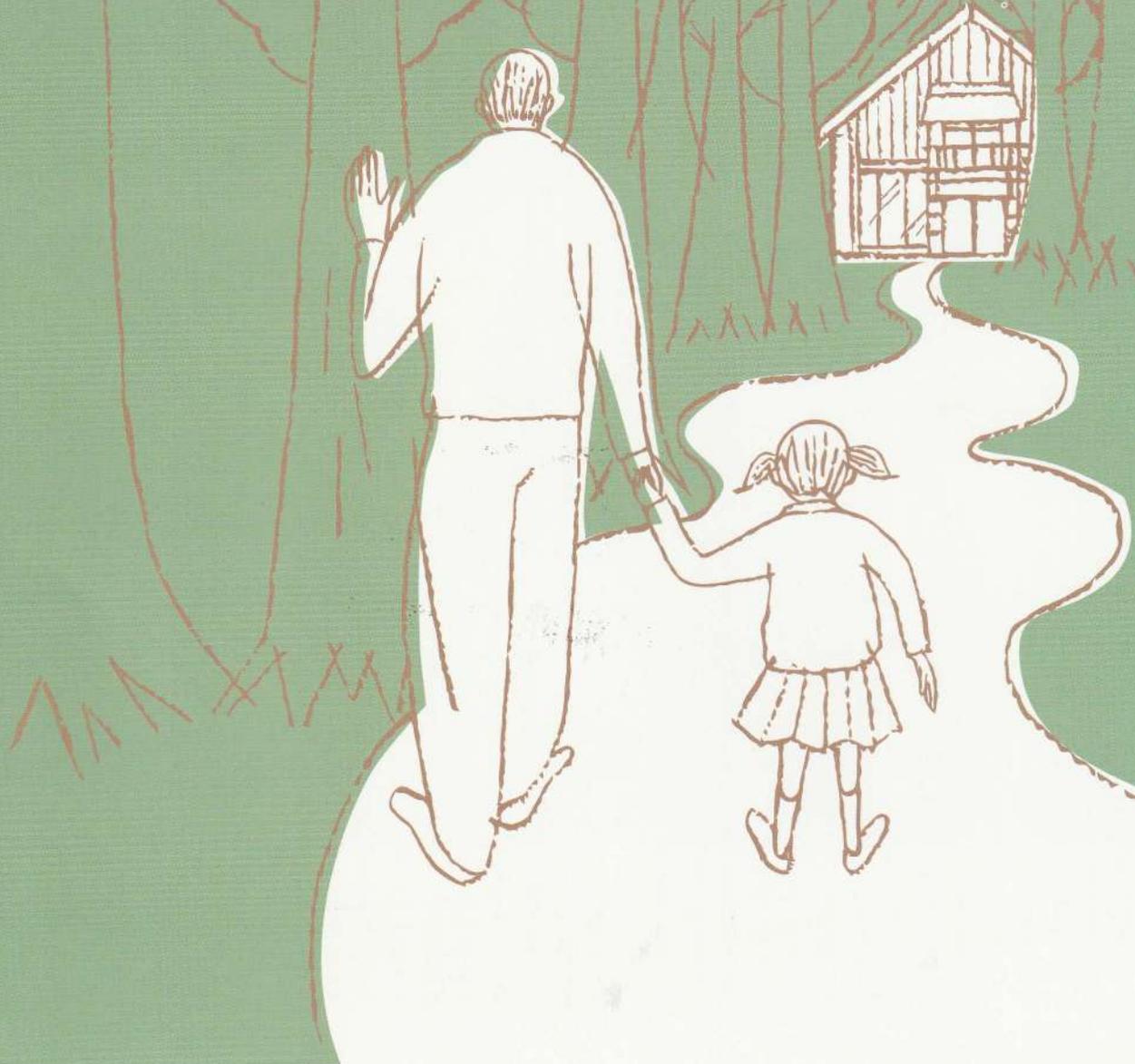
さまざまな形で木と接する人々から

届いた5つのメッセージ。

木のいろんな魅力、その点と点が一つの線となって、

読み終えた後に、きつと、やさしい木の家のカタチを

思い描いていることでしょう。



馬有 孝禮

takanori arima
木は人と環境にやさしい、
循環型の生きた資源。

Wood Voice

木と生物環境



心と体が接する住空間に、
自然素材のぬくもりを。

私共は以前、静岡県木連から委託されてある実験を行いました。木、金属、コンクリートという3つのゲージにマウスを入れて、環境の違いが生体にとどのような影響を与えるのかを調べてみたのです。初夏の実験では、産まれてから20日後の子ネズミの生存率は、木製では88%、金属製では42%、コンクリート製では7%という数字が出て、この結果だけがクローズアップされてきました。木の熱伝導率の低さや湿分の吸放出特性がプラスに働いたわけですが、しかし大事なことは、環境の違いがマウスの生理や行動にどう影響したかということなのです。そんな視点からこの差の原因を探ってみると、まず、木以外の素材は体温が奪われるために、お母さんマウスが授乳のために腹這いになる時間が短かく、栄養不良の子供が出てしまったこと。さらに、乳を吸えば子マウスは汗をか



きますが、金属やコンクリートの床は熱が奪われ、湿分を吸収しないため、体力の消耗が激しかったのです。さらに、お母さんが子供たちをかき集めるといふ、母性本能もこの環境下では働かなくなりました。しかし、この実験はマウスが対象であり、この結果がそのまま人間に当てはまるわけではありませぬ。しかし、私はここには大切なメッセージがかくされているように思えます。たとえば、私たちが床材料を選ぶ

際、傷つかない、汚れない、メンテナンスが楽だと、そんな便宜主義に流されていいかということです。重要なのは、それが私たちの体にふれる素材であるという認識です。一方、小中学校を対象に木造校舎とコンクリート校舎のストレス度を比較した調査が行われています。その結果を見ても、冷えた環境にいるコンクリート校舎の先生や生徒は、イライラや疲労などを訴える割合が高い。これはマウス実験で私が感じたことと非常に似ています。実際、冷えた環境に置かれたマウスはケンカが多く、計測の際にもよく暴れたのです。今、教育の現場で問題となっている子供たちの心の荒廃、それを少しでもやわらげるために、生命体としての人間を思いやる環境づくりというものが、必要な時代になったのだと思います。

便利さや快適さの中で、
見失われている人間本来の姿。

このマウス実験を通して私が興味深かったことは、生命体としての本能の問題です。半分に仕切ったゲージ

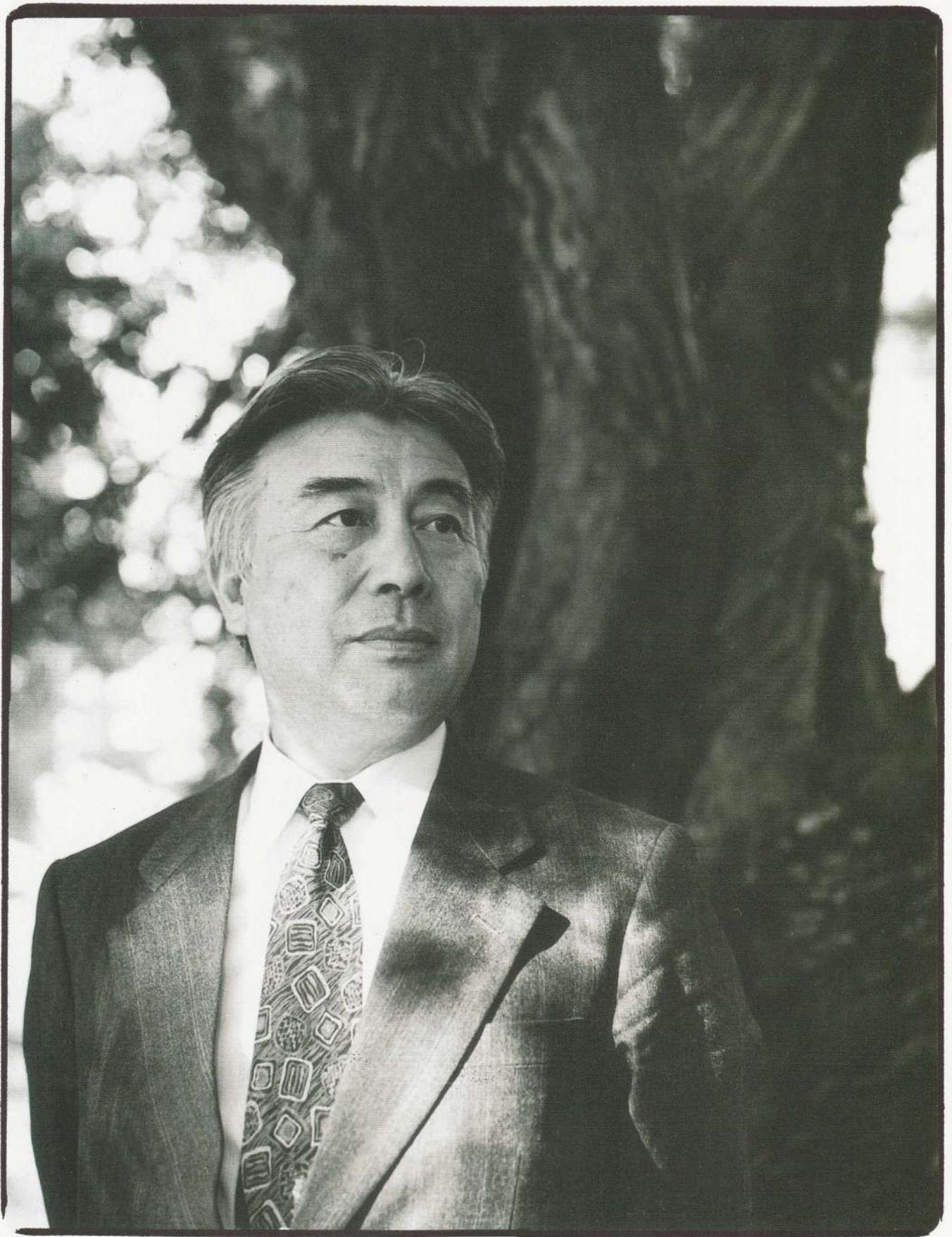


の床材料をいろいろ変えて、マウスがどちらで休むのかを調べたのですが、この休息場所の床材料の順位とマウスの生殖器の発達度が一致していました。面白かったのはヒノキとコンクリートのケース。生物は環境の中で、まず匂いを感じますから、1日目はコンクリートで休んでいましたが、2日目からは匂いがきつくても体温を奪わないヒノキに移ってきている。このようにマウスは、自分たちに危険な環境を見分ける能力を持っていたわけです。では、人間はどうかというと少々不安になります。便利さや快適さを求める時代の中で、人間が本来持っている危険察知の能力を失わせることをやらないかと。たとえば、木の床は湿分を吸収し、出しますから、ホコリが空中に舞いにくく床の汚れが

目立つ。そこでマメに掃除をするわけです。ところが吸放出のない材料は、ホコリが舞い上がってしまい汚れに気づかないのです。また、カーペットはダニの発生を促します。そして快適なはずの冷暖房も、季節の変化という自然環境との接触を私たちの体から遠ざけてしまっているのですね。

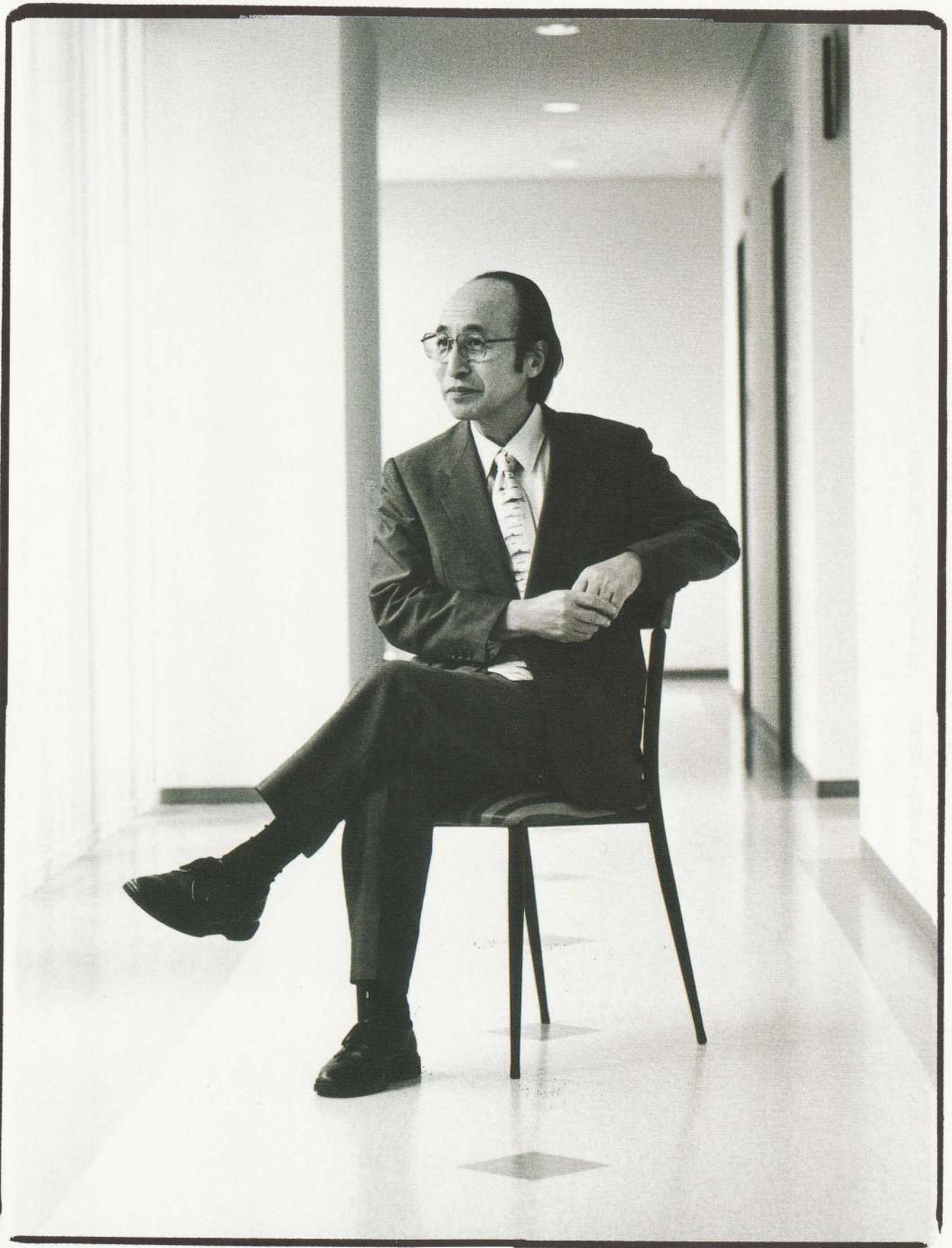
木は「大きな資源循環」をつくる
貴重なエコマテリアル。

地球環境に対する木や森林の働きとして、まず、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収貯蔵する効果があります。だから木の家を建てることは、今までの森林にあつた炭素ストックを都市に移すという行為に当たり、木の家に永く住み続けることは、このストック期間を延ばすことになります。次に、建築材料を作るとき消費エネルギー、すなわち二酸化炭素の放出が木材と他の材料では格段に違います。例えば1トンの天然乾燥の木材であれば、消費エネルギーは炭素換算で放出量30キログラム。ところが、鋼材はその23倍、アルミニウムは290倍となり、いかに環境への負荷が大きいかを物語っています。木は、空気中の二酸化炭素を取り入れて地面から水を吸い、太陽エネルギーで姿を変えたもの。つまり、地球上のエネルギー源を使っているのではなくて、外からのエネルギー源で成長する資源なのです。化石燃料をはじめ、地球上にあるエネルギー源を使っていたのでは、いくらリサイクルしても、これは「小さな循環」であり、資源は確実に減少していきます。ところが木という生物資源を使うことは、地球上の資源を枯渇させない「大きな資源循環」に当たるのです。今、国産木材の利用を経済性だけの論理ではなく、もっと大きな国益、人類益の視点から、行政も住民も「大きな資源循環」に本気で取り組むべき時期にきています。鉱物資源や化石燃料をとりつくす狩猟民族的な発想ではなく、循環の種を播く農耕民族的な発想こそが地球環境との適合を生むもの。木は私にとって、「生きる」とはどういうことかを改めて考えさせられる素材です。



有馬 孝禮【ありま たかのり】

東京大学大学院教授。'65年、東京大学農学部卒業。'74年、建設省建築研究所建設技
官研究員。'81年、静岡大学農学部助教授。'87年、東京大学農学部助教授などを経て、
'96から現職。農学生命科学の分野から、木材と健康問題、地球環境問題など独自の視
点から提言を行い、注目を集めている。『エコマテリアルとしての木材』（全日本建築士会）、
『木材は環境と健康を守るなど』（産調出版）など、著書も多数。'42年、鹿児島県生まれ。



宮田 幹夫【みやた みきお】

眼科医。'65年、名古屋市立大学医学部医学研究科修了。名古屋市立大学医学部講師、北里大学医学部教授などを経て、現在、北里大学名誉教授、北里研究所臨床環境医学センター客員部長。実際の患者と接する医師としての立場から、早くから日本のシックハウス問題に警鐘を鳴らし、当分野の権威者として改善のための研究と提言を積極的に行う。著書として、『あなたも化学物質過敏症?』（農文協）がある。'36年、名古屋市生まれ。

まだまだ不十分なシックハウス対策、ゼロが不可能なら、総量を下げる。

住宅のシックハウス(室内空気汚染)の改善策として、平成12年に、厚生省から8化学物質の指針値とVOC(揮発性有機化合物)の暫定値が発表されたの



をこ存じですか? その後、シックハウス問題は改善

の兆しが見えますが、現実的にはまだまだ不十分

それを原因別に見ていきますと、最も腹立たしいのは

いまだにホルムアルデヒドの高い住宅をつくりながら

社会的責任の大きさを自覚しない、大手住宅メーカ

ーが一部に存在することです。供給側がその姿勢を

正すことが問われますし、被害にあった方の怒りは

私以上に大きいことを真剣に受けとめるべきです。

また、前述の指針値発表以前に建てられた住宅に

も大きな不安が残っており、有害な新建材を多用

したものは数年経つても空気汚染は改善されません。

実際、ホルムアルデヒドは指針値以下に下がりにく

いことも事実です。最後に、いまだ野放し状態の有

害化学物質が存在していることも大きな問題です。

例えば白アリ駆除剤は、規制対象となつたクロロピリ

ホスだけが有害なものではなく、その他、有機リン系殺

虫剤、有機塩素殺虫剤、ピレスロイド剤など、危険な

ものはまだまだあります。とくに現在、空気の入

りが少ない、高気密、高断熱の住宅が主流となつて

るので、家を建てる際、使用する建材に含まれる化

学物質を全てチェックする心構えが必要です。目立

つた三悪として、ホルムアルデヒド、白アリ駆除剤、シ

ンナーが挙げられますが、有害物質はそんな単純に

限定することはできず、二つの毒性はもちろん、怖いのはその複合汚染。私たちの体は入ってきた毒素を分解しきれなくなつて、数々のシックハウス症状を起こしてしまうからです。有害化学物質をゼロにすることが不可能なら、せめてその総量を下げるための取り組みが必要なのです。



換気することが一番だが、建ててしまつてからは改善は困難。

シックハウス症候群の具体的な症状としては、頭痛、

疲労感、不眠、いらだち、目やのどの痛み、鼻血など

の「神経・粘膜障害」。下痢や吐き気などの「消化

器障害」。さらには皮膚炎、喘息、食物アレルギーな

どの「免疫障害」に分けられます。免疫の過敏症

状がアレルギーであり、神経の過敏症が化学物

質過敏症となります。とにかく、新居で暮らす新

婚ご夫婦に喧嘩が増え始めたら、シックハウスを疑っ

てください。「シックハウス離婚」なんてあまりにも

かわいそうですからね。では、こんなに恐ろしい室

内空気汚染から、身を守るにはどうしたらいいのか

という、まず換気することが一番です。温暖な時

期なら窓を全開にして、寒冷期でも時々外気を取

り入れることをおすすめします。とくに暖房時は

室内のガス濃度も跳ね上がりますから、要注意。

悪い建材から有害物質が出続ける以上、換気し続

けるしか方法がないのです。ただ、締め切った部屋

でキッチンの換気扇を回すと、壁裏や床下の空気が

汚染されていた場合、吸い上げられてしまうので、

必ず空気の流れ込み口を開けることを心がけてく

北里研究所臨床環境医学センター 北里大学名誉教授

宮田 幹夫

m i k i o m i y a t a

昔ながらの日本家屋は、シックハウスとは無縁。

Wood Voice

木 と 室 内 空 気 汚 染

2

込んである住宅では、5年経つても高い濃度を示す例もあります。以上を試みても効果のない場合は、残念ながら転居するしかありません。

先人の知恵を組み入れて、自然素材である木の効力を活かす。

基本的には、ムクの木を使うことは空気汚染の低減に最も有効だと考えられます。ただし、使用の際には、日本の伝統的な住まいの中に見られる先人の知恵の組み合わせが必要です。昔のように、それぞれの自然素材の特性を上手に活かすことをせずに、木材や骨の腐朽、虫食いを防ぐための薬剤を安易に使用すると、空気汚染を助長する結果を招きます。西洋の建築には、その風土に合わせた先人の知恵が組み込まれているわけです。高温多湿で、ライフスタイルの異なる日本において、単純に西欧家屋を模倣するのではなく、設計や建築を日本の風土や生活習慣に合わせていくことが必要です。木は私にとつて、懐かしい思い出の香るやすらぎの素材です。



栗田 仁【くりた じん】

建築家。'75年、名古屋大学大学院修了。'78年、栗田仁建築設計室設立。名古屋大学建築学科非常勤講師などを経て、現在、常葉学園短大美術デザイン科非常勤講師、東海大学短期大学部非常勤講師、静岡市都市計画審議会委員などを務める。建築作品として、静岡駅前「交通安全塔」、井川木造ドーム、集合住宅「Paddington」、麻機幼稚園遊戯棟など。『もう一つの住まい学』（時事通信社）、『街はいつでも上機嫌』（静岡新聞社）などの著書がある。また、テレビ、ラジオにも出演し、多彩な才能を見せる。'49年、静岡市生まれ。

安全、健康、強さ。

木は住まいへのニーズをすべて満たす。

日本は世界のどの国も体験したことのないスピードで長寿社会に突き進んでいます。そんな中で「寝たきりの長寿」ではなく「元気で活動的な老後」を実現するための装置となる住まいが望まれています。バリアフリー化については、床の段差を無くす、手摺りを付ける、ホームエレベーターを設置する、介護のためにトイレや洗面室(脱衣室)、浴室などを広くすることが形態面での対応といえます。そして、自然素材のテクスチャーを多く見せて、手がふれられるように配慮し、精神面にプラスの効果を与えることが素材面での配慮となります。また、住まい手の健康志向も年々高まり、シックハウスにならない設計や施工が求められるようになりました。人間は、ほ乳類霊長目の一種であることを再認識すれば、合成樹脂系の素材にかまれた環境ではなく、土、木、石といった自然素材を組み合わせた環境に住みたくするのは、当然の欲求。私も住まいの設計に当たり、作務的な部分をなるべく排除し、素材でも、造りでもナチュラルさを志向するようにしています。珪藻土の壁材など、自然素材が人気を取り戻しているのは、現代の健康志向を反映していると言えますね。その他に、耐震へのニーズも阪神淡路大震災を契機に高まっており、木造住宅でも鋼製の滑り支承(ジョイント)とショックアブソーバを組み合わせた免震構造が目ざされたりもしています。揺れを格段に少なくする効果は認めます。しかし、免震でないと安心できないということは全くありません。阪神淡路大震災でも、一九八二年以降の「新耐震設計」に基づき建てられた木造住宅は、地盤が崩れたり、手抜き欠陥工事でもされない限りほとんど被害はなかったのです。木はこんなに強い、素晴らしいということ、一般の生活者に訴求することは大切なことです。しかし、完全無欠な人間が面白みに欠けるように、木も欠点があるからこそ、また味わい

建築家

栗田 仁

z i n k u r i t a

人々の願いをカタチに 翻訳する、木の奥深さ。

深く魅力も生まれてくる。メリットばかり強調するのはなく、その善し悪しをかくさず伝えることが、メッセージに説得力をもたせることになるのですね。

人間の五感に訴える、工業製品にはない木の情緒的性能。

均質でないことの価値。これこそが命ある自然素材である木の特長です。たとえば構造材である板材や柱材に節があれば、欠陥と言われても仕方があり

Wood Voice

木と住まいの設計

3



説明できない快適さがあります。存在感があつて、安心感があつて、手入れのしがいがある...木は本当に人にやさしく、地球にやさしい素材だと、建築の現場に立つ者として実感しています。しかし、木材をとりまく環境をみると、山には使われない国産材があふれ、それを活用していかないと治山治水対策上も問題がある。その一方で国産材は高く使えない、という流通上のジレンマがあります。この悪循環を断ち切つて、国産材を建築にふんだんに使うことのできる仕組みを早くつくりたいですね。

伝統の中に新しさを見つける。
木は時を超えた可能性の素材。

ませんが、造作材として使う場合は、節はムク材の証明でもあり、色や木目が揃わないことも、私には自然素材の特権として映るのです。材質にバラツキがある、表面だつて不揃い。それは工業製品の価値基準に照らしてみると、明らかにマイナス要素ですが、「情緒的性能」(造語)の価値基準から見るとけつして悪くはない、むしろ好ましい。そういう部分を生活者の方にもぜひわかっていたいただきたいと思っています。私手がける住まいでは、洗面所

よく我々の仲間と、なかば冗談で「これからは鉄骨の耐火被覆を木材でするように」と話していたのですが、これを現実にやつてしまつた建築家があります。紙管をつかつた建築で有名な坂茂さんが設計した6階建てのビルがその例であり、実験を繰り返して建築基準法38条の大匠認定を受けたそうです。要は「燃えしろ考慮設計」により大断面集成材構造が可能になったのと同じ理屈です。私もそんな大断面の集成材を使ったジムのようなものを、数回設計したことがありますが、手軽につくれる大空間を住居に活用できそうだと、その都度感じていました。また、これからの新しい可能性の一つとして、壁から離れた柱を多用した建築。つまり丸い柱を使った建築をぜひ手がけてみたいと思います。直線の部材を組み合わせて曲面を構成する設計も、私の中ではかなりこなれてきましたので、骨太の木の構造体を化粧露し



(脱衣室)やトイレといった狭い室内の天井に、よくヒノキ板を張ります。必ずしもヒノキの森林浴効果(フイTONチッド)を五感で実感できる量ではありませんが、

た容積の豊かな空間に、これからの大いなる可能性を感じています。木は私にとつて新しい建築のイメージをふくらませてくれる古き良きパートナーです。

こだわりのある木で、 本当の注文住宅を建てる。

私の子供の頃、日本の住まいはほとんどが在来工法（木造軸組）で建てられていました。しかし最近、工場で作られた建材を生産し、現地で組み立てるプレハブといわれる工業化住宅が増えてきています。では、在来工法とプレハブ、両者のどこが大きく違うのかというと、私は大工さんのこだわりが、その材料に、木組みに、そして空間の仕様に反映されているか、いかだかだと思います。家を建てる時ハウスメーカーなどの規格住宅の場合、外観や間取りの話が中心になり、材料や工法の話はほとんどしない。それらはすでに決定済みで、変更がきかないからなのです。しかし、私の手がける住まいは、まず、使う材料の



話から始まり、木組みや構造についても建て主の要望に合わせて自由に対応がきく。基本的に木造軸組住宅は、住まう人の顔が見えるオーダーメイドの住宅なのです。私の場合は、床下の根太（ねだ）には狂いにくい芯持ち材を使ったり、小屋組では火打ちにくわえて太鼓張りを組み、強度を高めるようにしています。それらは構造材なので、家が完成すれば隠れてしまいますが、そんな所も職人としてのこだわりの一つなのかもしれません。そして、木という材料は、そんなこだわりに応えてくれる正直さがあります。たとえば手をかけて削った柱は、きめ細やかな美しさや光沢が出てくるし、丹精込めて仕上げた床の間は工芸品にも通じる美しさが漂います。在来工法も、その強度を高めるために、地盤の基礎を固めたり、筋交いに加え、金物やボルトでつなぎ補強したり、耐震面では、確かに昔より進歩していますが、その反面、木の魅力を引き出す匠の

技というものが薄れてきているのはさみしいですね。ハウスメーカーとの競争の中で、効率化、機械化が避けられないことは、私も実感していますが、永い歴史の中で培われてきた伝統の技や工法を、できる限り継承していくのもまた務めであると思います。家を建てることは、一生に二度の大きな夢。それを任された責任は大きいのですが、ともに夢を共有しながら二つ納めゆくまでつくりあげていく。木の香漂う新居で家族みんなの喜ぶ顔を見るのが、私の仕事の励みになっています。

木は伐られ、建てられた後も いい仕事をしてくれる。

私は弟子時代を含めて、今まで何十年にもわたり木と接してきました。木の良さを肌で感じ、その活

かし方も心得ているつもりです。そんな私が木の家を建てる人に、番にいたいのは、木の良さを殺さない工夫です。たとえば、壁を仕上げる際、全部クロス貼りにするのではなく、一面だけはある程度の厚さのある杉やヒノキなどのムク板を張ることをおすすめします。木は生きものですから、室内の水分を吸ったり吐いたりするので、梅雨時の湿気感や、冬の暖房時の結露の仕方が違ってきます。また、タンシヤクローゼットなどの内部をムクの木材で仕上げることも、自然の空調機である木の良さを引き出す知恵。実際、住まれた方から「シーズン通じてジトジト感が違いますよ」という声をいただくこともあります。また、これは私のこだわりなのですが、2階建てでも一本大黒柱を通すこと。これは木の性質を引き出すこととは違いますが、その柱はまさに父親の象徴であると思うのです。親子の関係がおかしくなつてきている今、大黒柱を中心に互いに支えあっている家の

姿を、今一度眺めてもらいたい。家はそこで暮らす家族のあり方まで教えてくれているのですね。さて皆さんも、私の顔を見てもうなすかれることと思いますが、とかく大工には、頑固だとか、話しづらいつか、そんなイメージがつきものです。そこでアドバイスがあります。大工の建てる家に興味がある方は、ぜひ、その現場へ出かけてみてください。現場で習え、これが大工の仕事ぶりを知る一番よい方法です。遠慮せず、声をかければ、案外親切に対応してくれるはず。職人ならではの話しも、きっと聞けると思っていますよ。

育てる人、つくる人、住まう人。 県人の心を結ぶ静岡産の家づくり。

静岡に家を建てるのなら、同じ気候風土で育った地元の木が一番適しているのはいうまでもありません。温暖な気候と清らかな水源に恵まれた静岡県。その豊かな自然に育まれた県産の木材を有効に活用するために、地元の大工と工務店が協力して静岡地域限定住宅づくりに取り組んでいます。徳川家康のお膝元であった駿府は、駿府城や浅間神社の建築のために全国の職工が集められた城下町。今でも家具や雛具などの木製品づくりが盛んなのも、その伝統が受け継がれているからなのです。静岡地域限定住宅でも、そんな匠の街の木へのこだわりをカタチにするために、県産材をふんだんに使うとか、和室は漆喰、砂壁を標準とすると、木材加工は、墨付け、キザミを基本とする手づくり工法を用いるとかの規定を設けています。さらに静岡の気候風土に適した住まい方の提案も、家づくりの中に反映させています。木の持ち味を活かした在来工法だからこそ実現できる、健やかさや、暮らしやすさや、確かな耐久性。そんな真似のできない魅力を、これからも追い求めていきたいと思えます。木は私にとって、生涯の伴侶であり、私の想いを人に伝えてくれる素材です。

4

棟 梁

長田 喜一

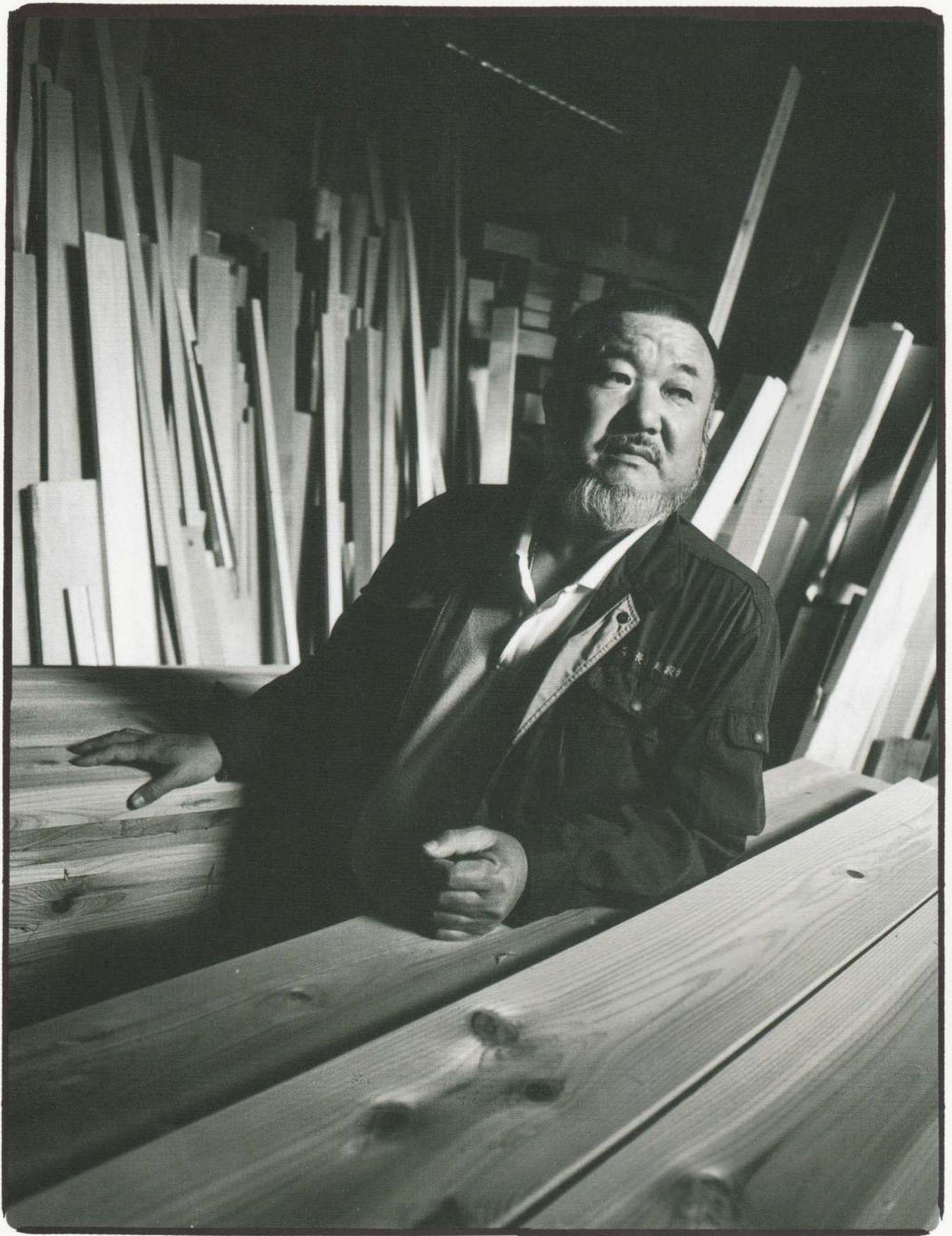
kiichi osada

住まう人の心を組み、
“和み”を築く木造軸組住宅。

Wood Voice

木と伝統工法





長田 喜一【おさだ ぎいち】

2人の棟梁に師事し、23歳で独立。現在、長田建設株式会社代表取締役、静岡大工建築業協同組合副理事長。同組合青年部の初代会長として、静岡地域限定住宅の構想に尽力。持ち前の明るいキャラクターで、大工の技能を競うTV番組にも静岡代表として出演。伝統工法を大切にしながらも、CAD・CAMを導入し設計や積算の合理化を図るなど、新しい時代に対応する木造軸組住宅づくりに力を注いでいる。'49年、静岡市生まれ。

じぶんたちの暮らし方を
住まいづくりの出発点にする。

家を建てる決めた人がほとんどそうするように、私たちもまず、ハウスメーカーのモデルハウスが建ち並んだ住宅展示場へ足を運びました。そこで開口二番開かれたのは予算のこと。それは、「その金額ならこの家が建てられます」というセールス色の強い住まい選びでした。各社が口を揃えて言うフリープランも、実際は選択肢が決まっている中でフリープラン。土地の方角と坪数で、その家の仕様がだいたい決まってしまうんですね。こんなものかなあ、と思い始めた矢先でした。「面白い家があるから見てこいよ」と知人に言われたのは。それが今回、お世話になった地域の設計者グループのつくった家だったのです。最初は驚きましたね。外観は工場みたいで、これが家か？って感じでした。しかし中に入ってみると木の香りがする。自分の家じゃないのに不思議と落ち着く。そして何よりも意外だったのが、担当の方にはまず「どうい生活がしたいですか」と聞かれたことです。そして「それならこの空間はこういうふうに使いたいですよ」という暮らし方に合わせたオリジナルな空間発想がそこにはありました。住まいのつくり方がハウスメーカーとは根本的に違うんですね。この設計者グループは、地域の風土の中で育った杉やヒノキを使い、地元の仕事店製材所、林業家とネットワークを組みながら、人と自然になじむ木の住まいをつくりあげているのです。そんな輪の中に私たちも住まい手という立場で加わり、わが家の建材となる木材を山奥の伐採場まで見に行ったり、建築現場で仕事をしている大工さんや職人さんから直接、木のことや工法のことを教えてもらったりしました。普段、交流のない方々と一緒に家づくりが進められたのも、思い出に残る財産なのかもしれないですね。また若いのに家を建てると言い出して、不安そうな顔をしていた私の親父が建て前に立ち会った時、「こんな家が今でも建てられるのか」というような顔をして、嬉しそうに不思議そうに見てい

地域でつくる木の家のオーナー

市田 充・美七子

m i t s u r u ・ m i n a k o i c h i d a

長短はあるが、木の家には不自然さが無い。

Wood Voice

木と暮らす実感

5

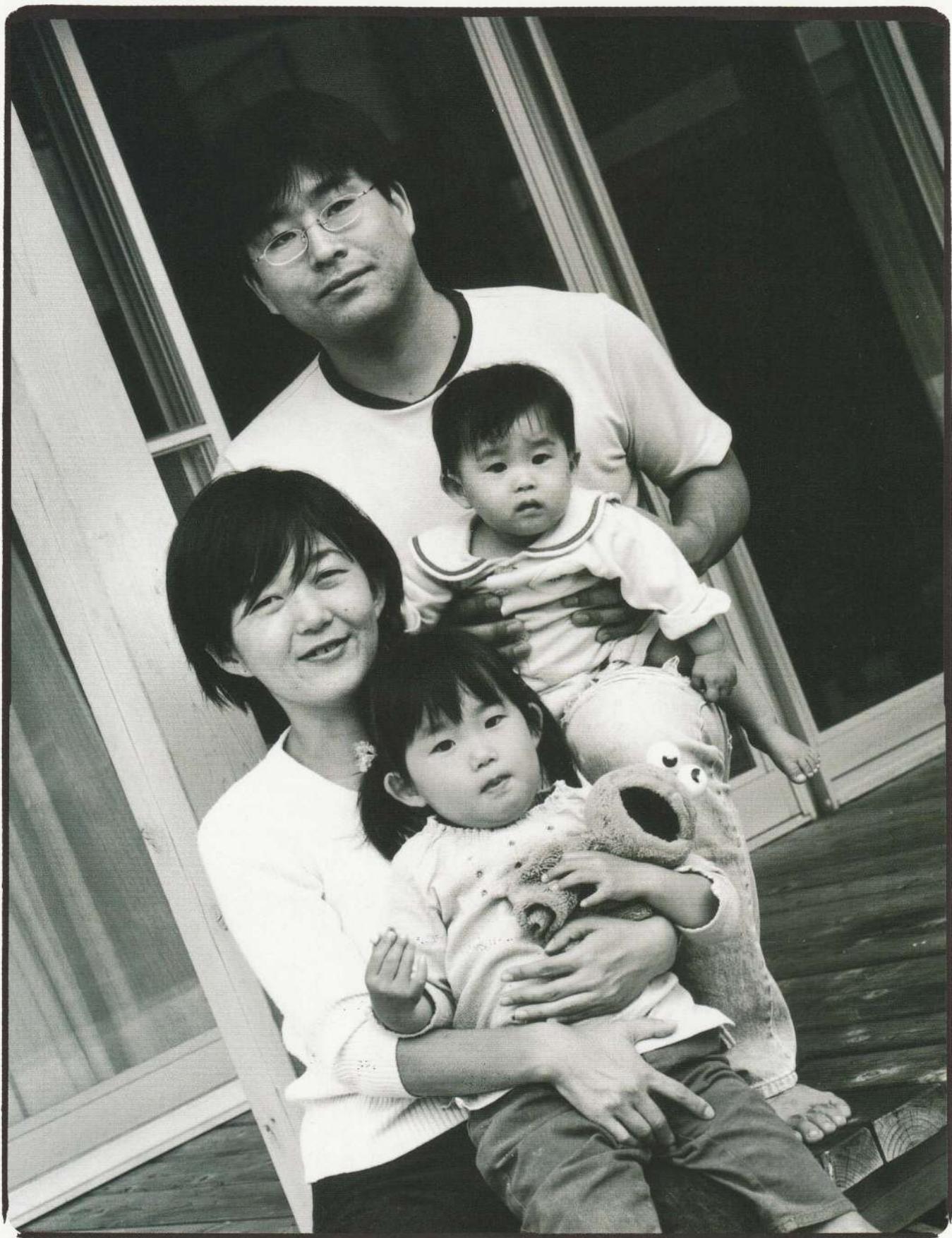
たのがちよとおかしかったですね。
どの部屋にも漂っている
木の香が、家の香。

今では慣れてしまつてそれに気付きませんが、家に来た人から「とても木の香りがする」と言われます。それが私の家の香です。よく新築住宅といえば、白い壁紙、ワックスのかかれたフローリングなど、ピカピカに輝いているイメージを抱きますが、私の家はムクの木材や漆喰を使っているので同じ新築でも色合いが違います。以前はアパート住まいで、冬場など窓が結露し、室内にカビが生えるんじゃないかと心配でしたが、今はそんなことも無くなりました。生活する上でいろんなことに気付かなくなること、それが自然な住み心地なのかもしれません。妻も最初、子供のこぼした牛乳や小さなゴミが床板の継ぎ目に入つてしまいとりにくかったり、傷やへこみができやすい、と言っていました。今ではそれも普通のこととなつてしまいましたが、あらかじめ、施工者から木材の特性の説明を受けていたが、住み始めて襖が閉めにくくなつて手直ししてもらったこともあり。しかし、そんなことが起こるのも木という生きた材料の存在感。こうして座つていても杉の床はあたたかいし、やわらかい。いくら傷が付いてもそん

な感触まで損なうわけではありません。傷や汚れも家族の生活の記憶となつて、20年30年一緒に歳をとり、いい味わいを出してくれたらいいと思います。
木の家でのびのびと成長する
子供たちを見守りながら。

私たちの家の間取りの特長として、子供たちが自由に走り回ることができるように、キッチン、居間、和室で構成される1階は廊下のない一つの空間としました。また家族の気配が感じられるよう、階段を1階の真ん中に置いた造りとなっています。休日など、陽当たりの良い縁側に寝ころびながら、子供のはしゃぐ声を聞いていると、小さい時にじぶんが住んでいた家を思い出したりもします。その頃のじぶんと目の前の子供たちの姿とを重ね合わせ、これから子育ての始まる時期にこの家を建てて本当に良かったと思つています。妻は、雑誌などで木の家は特別な家という取り上げられ方をされていると少々不満げ。木の家が普通の家であると思えるようになればいいのに、と二人で話しています。実際に建てたから言えるのですが、特別高いわけでもなく、工夫次第で若い夫婦にも手が届くというのが本音です。木の家を建てたいとお考えの方は、ぜひチャレンジしてください。今まで見えなかったものが見えてくるかも知れません。木は私にとって、そのぬくもりに、家族のぬくもりを重ねながら、ともに過ごした歳月の味わいを教えてくれる素材です。





市田 充・美七子【いちだみつる・みなこ】

住まい手と設計者、造り手、木材生産者までを含めたネットワークの中で家づくりを進める設計者グループに家づくりを依頼。地域の風土に育てられた木材を使って、ムクの木の良い実感できる家を、2000年引佐郡細江町に新築。ふたりの娘さんとの生活を楽しんでいる。市田充さん'69年富山県生まれ、美七子さん'70年愛知県生まれ、涼香(すずか)ちゃん(3才)、春音(はるね)ちゃん(11ヵ月)。

図表で見るビュー

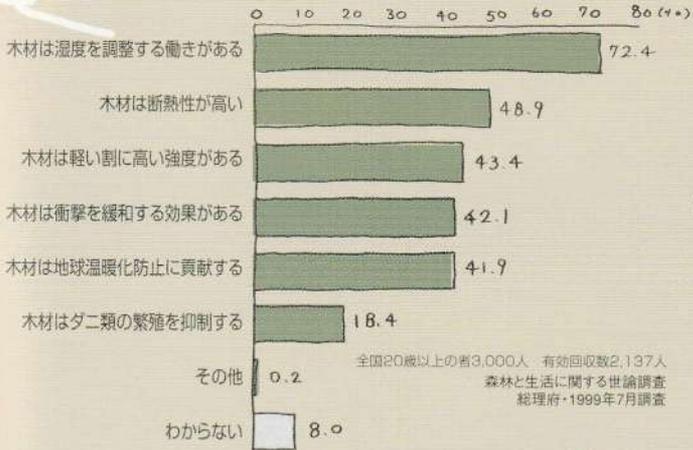
各図表を見ながら、もう一度、気持ちに届く木の香りを確かめてみてください。



建築用材として、木はどんなところが魅力的？

一般の人は、「湿度調整」「高い断熱性」「軽くて強い」「衝撃吸収」などに木の魅力を感じています。さらに、地球温暖化防止に貢献するエコ素材として木をとらえる方も増えています。

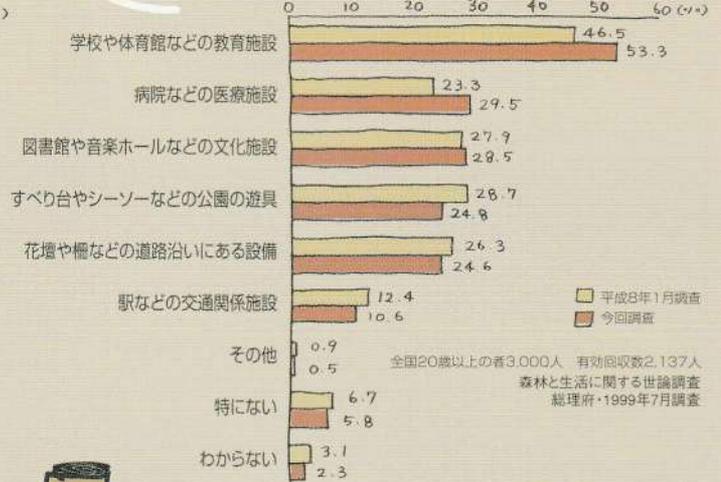
【建築用資材としての木材の魅力】 (複数回答)



いろんな施設に木のぬくもりがあったらいいね。

一般の人にどんな公共施設に木材を使ってほしいが聞いたところ。学校や病院、図書館など、やすらぎが求められる施設へリクエストが多く集まりました。

【公共施設等への木材利用】 (複数回答)



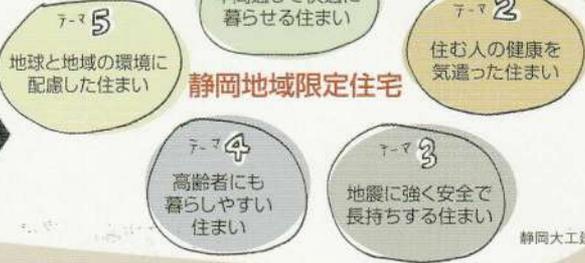
静岡産の住まいづくりは、地域&未来志向。

静岡大工建築業協同組合が提唱するのが、時代環境を考慮し、静岡流の住スタイルを実現する「静岡地域限定住宅」。次代へ継承したい地域の材と匠の技もしっかりと活かされています。



【「静岡地域限定住宅」の基本テーマ】

「見た目が良く、安ければ良い」という住宅の弊害
 「気候風土」を考慮しない住宅の増加
 「住む人の病」の増加



在来工法の木造住宅にラブコール！

女性はどんな住宅を選びたいと思っているのか？ その人気度を見てみると約6割が木造住宅に集まり、その中の4割が在来工法となっています。日本伝統の木造軸組住宅は、変わらぬ人気を誇っているんですね。

時代とともにさらに広がるマイホームへの要望。

「耐震性」や「耐久性」など、従来から住まいに求められていた機能に加えて、「健康への配慮」や、「バリアフリー化」など、時代を映すニーズも高くなっています。建物としてただ丈夫なだけではなく、住む人へのやさしさも求められる時代なのですね。

【これから選択したい住宅の構造・工法】 単位：上段/件 下段/%

木造住宅				非木造住宅				集合住宅
在来	2×4	木造フラット	小計	鉄筋	鉄骨	その他	小計	
101	44	61	151	62	32	2	96	5
40.0	17.5	2.4	59.9	24.6	12.7	0.8	38.1	2.0

【あなたの住まいにほしいと思われた機能・性能】 単位：件数

項目	1位	2位	3位	順位なし	合計
省エネ対策	8	11	17	4	40
バリアフリーなど高齢化対策	17	21	29	12	79
耐久性	35	28	21	14	98
耐震性	55	26	18	14	113
断熱性・気密性	6	16	21	7	50
防耐火性	5	14	16	4	39
遮音性	7	16	14	2	39
健康への配慮(合板壁紙など)	28	29	21	9	87
その他	0	0	4	0	4

調査対象：消費科学連合会会員300名 回答数：186名(62%)
木造住宅の選定要因等に関する女性の意識 (財)日本木材総合情報センター・2000年

調査対象：消費科学連合会会員300名 回答数：186名(62%)
木造住宅の選定要因等に関する女性の意識 (財)日本木材総合情報センター・2000年

締めくくりとして、いままでのお話しに関連するデータをまとめました。

P3.4 木と生物環境 有馬孝禮

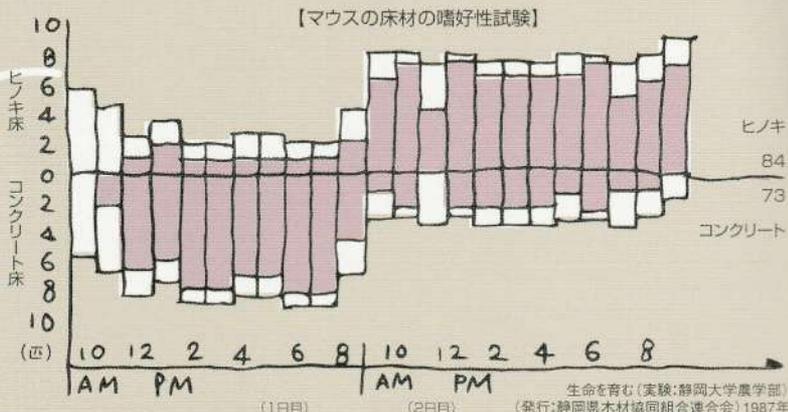
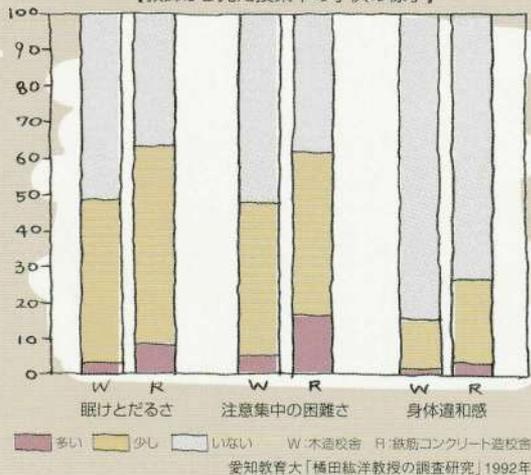
コウモリ動物、やっぱり自然素材が好き。

ゲージを二分し、それぞれの床に異なる材料の建材を貼り、マウスがどちらの部屋で休息するのか調査しました。1日目はヒノキの匂いをきらいコンクリートの床で休んでいたマウスが、2日目からは体温を奪われないヒノキの床に移りました。さて、あなたはどちらの床で休みたい？

どうして私の授業に集中できないのかな？

教師から見た子供の様子(小学校5,6年生)を木造校舎と鉄筋コンクリート校舎と比較しました。鉄筋コンクリート校舎の子供たちは「眠気とだるさ」、「注意集中の困難さ」といった疲労症状が出ていると教師は感じています。

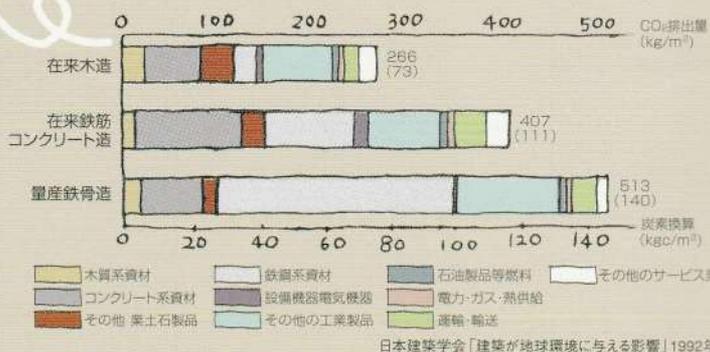
【教師から見た授業中の子供の様子】



在来工法の木造住宅は、環境の味方。

建材生産を含めて、住宅を建てる際のエネルギー消費(CO2発生量)を構造別に比較しました。在来工法の木造住宅は、鉄筋コンクリート造や鉄骨造の1/2から2/3ですみ、環境にやさしく建てられることがわかります。

【住宅建設時に放出される床面積当たり二酸化炭素重量(構造別)】



P5.6 木と室内空気汚染 宮田幹夫

健康被害に関する主婦の関心はますます高く。

普段、家にいることの多い女性を対象に、化学物質過敏症(シックハウス症)の原因物質と考えられるものを選択してもらいました。壁紙などの接着剤、塗料、内装の合板の3つは6割を超える人が原因物質として認識しており、有害建材の情報も浸透してきています。

【化学物質過敏症(シックハウス症)に関係があると思うもの】

項目	年齢層 (複数回答)					合計
	30歳未満	30~40歳未満	40~50歳未満	50~60歳未満	60歳以上	
内装の合板	7 (53.8%)	13 (72.2%)	31 (68.9%)	39 (69.4%)	43 (70.5%)	128 (60.8%)
壁紙の接着剤	10 (76.9%)	17 (94.4%)	41 (91.1%)	42 (85.7%)	57 (93.4%)	167 (89.8%)
塗料	7 (53.8%)	14 (77.8%)	36 (80.0%)	42 (85.7%)	45 (73.8%)	144 (77.4%)
ハウスダスト	8 (61.5%)	6 (33.3%)	15 (33.3%)	14 (28.6%)	17 (27.9%)	60 (32.3%)
結露	5 (38.5%)	7 (38.9%)	11 (24.4%)	16 (32.7%)	20 (32.8%)	59 (31.7%)
白蟻駆除剤	3 (23.1%)	9 (50.0%)	17 (37.8%)	26 (53.1%)	31 (50.8%)	86 (46.2%)
ダニ	5 (38.5%)	3 (16.7%)	12 (26.7%)	16 (32.7%)	24 (39.3%)	60 (32.3%)
殺虫剤	3 (23.1%)	5 (27.8%)	11 (24.4%)	18 (36.7%)	28 (45.9%)	65 (34.9%)
衣料の防虫剤	2 (15.4%)	4 (22.2%)	5 (11.1%)	8 (16.3%)	13 (21.3%)	32 (17.2%)
防カビ剤	5 (38.5%)	8 (44.4%)	19 (42.2%)	19 (38.8%)	25 (41.0%)	76 (40.9%)
持ちを良くする強化剤	3 (23.1%)	0 (0.0%)	4 (8.9%)	6 (12.2%)	8 (13.1%)	21 (11.3%)

調査対象: 消費科学連合会会員300名 回答数: 186名(62%)
 木造住宅の選定要因等に関する女性の意識 (財)日本木材総合情報センター・2000年より抜粋

暮らし いきいき、けん木れん



けん木れん

企画・発行 静岡県木材協同組合連合会

〒420-8601 静岡市追手町9番6号 県庁西館9階

TEL.054-252-3168 FAX.054-251-3483

e-mail : s-mokuren@mail.wbs.ne.jp

http : //www2.wbs.ne.jp/~smokuren

- 本資料の無断転載を禁じます。
- 本紙はエコマーク認定の再生紙を使用しています。